

中学2年生 総合的な学習の時間 学習指導案

八千代市立村上東中学校

教諭 野口 雄毅

1. 単元名 「八千代市未来プロジェクト ～地域課題を解決しよう～」

2. 単元の目標

○地域に存在する多様な企業や人々の働きを調べ、地域社会が相互に支え合って成り立っていることを理解する。あわせて、地域の自然環境や産業の特徴、持続可能な取組（エネルギーの地産地消、再資源化など）について知識を広げ、情報を整理・発信する技能を身に付ける。

[知識・技能]

○地域の現状や課題を多面的に捉え、どのような地域の未来をつくりたいかを考える力を養う。調査や体験を通して得た情報を比較・分析し、自分たちなりの解決策や提案を論理的に構成し、ポスターや発表などで効果的に表現する力を育てる。

[思考・判断・表現]

○自分の暮らす地域への関心を深め、課題解決に向けて自ら学び・行動しようとする姿勢を育てる。地域の人々との交流や仲間との協働を通じて、他者の考えを尊重しながら自分の役割を果たし、持続可能な社会づくりに主体的に関わろうとする態度を養う。

[主体的に学習に取り組む態度]

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、生徒が自らの生活と密接に関わる「地域」を教材として扱う。地域には、農家、工場、介護施設、飲食店など多様な職業や人々の営みが存在し、それらが互いに支え合いながら地域社会を形成している。このような実社会を題材にすることで、生徒は「働くこと」の意味や、地域が抱える課題、持続可能な社会づくりへの責任を実感的に学ぶことができる。また、地域企業の取り組みを通して、環境保全やエネルギーの地産地消など、SDGsに通じる視点を養う。身近な地域を教材化することは、生徒が自分ごととして学び、未来を主体的に創造する力を育てる上で意義深い。

(2) 生徒観

中学2年生は将来や社会に関心を持ち始める時期だが、社会の仕組みの理解は不十分である。また、地域・企業の人々と中学生は直接的な関わり合いが少なく、地域・企業に関しても関心度は低い。通学路や自宅付近の企業を知ることを足掛かりに、私たちの生活が多くの人や仕事に支えられていることを実感し、社会の一員としての自覚や仲間との協働、自分の意見を表現する力を育てることが重要である。

また、中学校1年生から3年生で段階的に学習をすすめる。中学1年生は、「世の中ってどうなっているのか」と、社会に興味を持ち始める大切な時で、企業の人々の仕事を知ることを学習目的にする。また、中学3年生は、進路選択を控える時期を迎え、将来や社会の構造に対してより深い関心を持つようになるので、特に「企業が担う経済活動」についての理解を促進し、社会の中での自己の役割を深めることを学習目的にする。

(3) 指導観

本単元では、教師は知識を与えるだけでなく、生徒が自分ごととして地域・企業に関わり、地域課題を自分が解決するなどのよう解決策があるかを考えさせる。そのため、フィールドワークやインタビューを通して、企業の人々と接する機会を増やすとともに、職場体験を通して、働くことの意義を自分の価値観として捉えて深める活動にする。このような、地域・企業との関わりを通じて問いを深め、自ら答えを導く力を育てる。また、自分の言葉で表現する活動を取り入れ、学びを社会的・持続的視点へ発展させていく。

(4) ESDとの関連

①見方・考え方

本学習では、地域社会を題材として「持続可能な未来を自らの手で創り出す力」を育てるために、次の3つのESDの視点を働かせる。

ア. 相互性

自然が多い地域と都市部とが互いに支え合い、共に発展する関係を理解する。地域の人々や企業がどのように連携しているかを考え、共生の大切さに気づく。

イ. 有限性

資源やエネルギーが限られていることを理解し、それを有効に使う方法を探る。企業や地域の取り組みを調べ、循環型社会の必要性を学ぶ。

ウ. 責任性

未来の地域をつくる責任は自分たちにもあることを意識し、課題解決に向けて行動する態度を養う。自分の役割を見つけ、他者と協力してよりよい地域社会を創造しようとする姿勢を重視する。

②育てたいESDの資質・能力

本単元では、地域課題の解決を通して、持続可能な社会の担い手として必要な次の3つの資質・能力を育てることを目指す。

ア. 未来像を予測して計画を立てる力

地域の現状を調べ、課題を見つけ、未来のあるべき姿を構想する力を養う。多様な立場の人々（ステークホルダー）を意識し、課題の改善に向けた具体的な計画を立てる力を育む。

イ. コミュニケーションを行う力

自分の考えを明確にもち、他者と意見を交わしながら新たな視点を育てる。地域の人々や仲間との対話を通じて、協働的に学びを深める力を培う。

ウ. 進んで参加する態度

自らの役割を自覚し、地域の課題に対して積極的に行動しようとする態度を育てる。小さな実践でも自分たちができることを考え、行動に移す姿勢を大切にする。

③達成が期待されるSDGs

11：住み続けられるまちづくりを

17：パートナーシップで目標を達成しよう

4. 単元の評価規準

ア 知識及び技能	イ 思考力・判断力・表現力	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 地域の産業や自然環境、ESDの視点について理解している。	① 調査や体験を通して地域の課題を見つけ、対話を重ね、考え、適切に判断している。	①地域の企業や人々の働きに関心をもち、主体的に学ぼうとしている。
② 自分の考えや提案を、ポスターや発表などで的確に表現している。	② 地域について学んだことから、自分たちが伝えたいこと、行動することを整理し、表現している。	

5. 単元の全体計画（全21時間）

時	学習内容	学習活動	教師の支援・留意点	評価(△) 備考(・)
第1時 第2時	地域を知る	通学路や自宅周辺にある企業を現地踏査し、地図上に企業名を記録する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域主体は、個人・家庭、企業、学校、行政、NPOなどから構成されること指導する。 ・地域地図を配布する。 	△①・ウ
第3時 第4時	企業を調べる	<p>地図上に記録された企業について分類（飲食店、工場、農家など）をする。</p> <p>インタビューなどを通して、企業の特徴（事業内容と社会貢献、働く人の思いなど）を調べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業分類表を配布する。 ・インタビュー用紙を配付する。 	△ア①
第5時 ～第7時	職場体験の準備 事前訪問	<p>職場体験の目的を明確にするなどの準備をしたのち、事前訪問をする。特に以下の点を、しっかりと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の仕組みと企業の役割 ・働くことの意義や厳しさ ・企業や働く人が抱える課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なマナー指導をする。 ・質問内容が職場体験上必要かどうか確認をする。 	△ア①
第8時 第9時	職場体験	職場体験の内容を細かく記録（時間、体験内容、感想など）する。	安全面・時間管理・記録の取り方を指導する。	△イ①・ウ

第10時 ～第12時	体験をまとめる	職場体験の目的に沿って、体験で得た学びを整理する。また、働く意義を通して、自分の価値観を知る。そして、企業や働く人の課題について、ポスターやスライドで整理をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の価値観を深めるようにする。 ・企業や働く課題について、予想される原因まで考えるよう支援をする。 	△イ②
第13時 ～第15時	企業の課題解決策を提案する	<ul style="list-style-type: none"> ・企業や働く人の課題について、社会科や理科などで学習した内容と紐づけて、課題解決策を考える。 ・解決策は提案書の形式にまとめ、職場体験先に提案する。提案内容について、アドバイスをいただき、さらに課題解決策を深める。 	課題解決策について、学校での学びや書籍等で十分に情報を集め、根拠をしっかりと持たせる。また、その解決策に自分がかどのように関わるのかを考えさせる。	
第16時 ～20時	地域の未来を考える	<p>「未来の地域を考える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで考えた課題解決策をスライドにまとめて、発表をする。 	SDGs・ESDの観点を振り返りながら、地域が持続可能になるためには、多くの企業の関連があったり、実行可能にするためには、生徒自身の価値観の深まりが大切だったり大切だと気付かせる。	△イ②・ウ
第21時	課題解決をはじめる	いくつかの課題解決策から実現可能性が高い案を2つ絞り、団体・企業と協力をして課題解決を始める。	絞った課題解決策を実現するために、関係する地域・企業との協力体制を築く。	

6. 主な学習活動の工夫

- ① 会社とは、地域でどのような役割を果たすのかを実感させるため、フィールドワークやインタビューをする。
- ② 職場体験活動で学習内容をもとに、企業が働く人が考える課題を解決する提案することで、実社会との接点を実感させる。
- ③ SDGsとの関連（エネルギー、まちづくり、働きがいなど）を明示し、探究意欲を高める。
- ④ 地域課題解決策については「自然と都市のバランス」「地域の幸福感」「協働の大切さ」をキーワードに議論させる。